

1985・3

第 10 号

しらこぼと

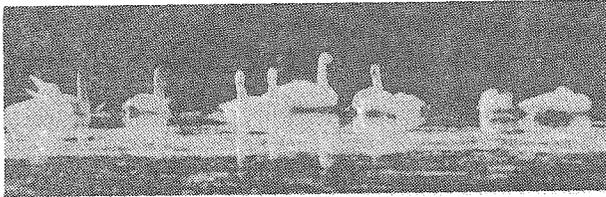
日本野鳥の会埼玉県支部



またもや珍客・オオハクチョウ 大麻生サンクチュアリに夢ふくらむ

本年1月26日午前11時頃、大里郡川本町の荒川、植松橋下流に、オオハクチョウの成鳥3羽と幼鳥2羽が、コハクチョウ5羽とともに羽根を休めているのが、寄居町の村上トシ江さんらによって確認された。

オオハクチョウの県内への渡来は、前月号本誌にも記載した様に、1973年12月、本庄市仁手と妻沼町付近の利根川で観察された記録があるほか、1983年1月16日にも阪東



オオハクチョウとコハクチョウの群れ

大橋下流の利根川で、コハクチョウ12羽にまじって1羽が、田村照治、石井生高両名によって確認されている。関東地方では、茨城県の新徳沼がオオハクチョウの定期的渡来地として知られているが、埼玉県内への渡来はめずらしい。

1月27日午前6時ごろには今井明巨幹事が写真(左下)撮影した。

この地点は、私たちがサンクチュアリの設置を働きかけている大麻生から、約5km上流にあたる。大麻生に一定の条件を整えた水面が確保できれば、コハクチョウやオオハクチョウの群れ遊ぶ光景が期待できるかも知れない。その様なサンクチュアリの実現に向けて、会員の意志をそろえ、より意欲的な活動を続けたい。

ウトナイ湖サンクチュアリ・その後

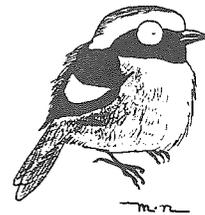
昨年11月号と12月号ではがき作戦への参加をよびかけたウトナイ湖サンクチュアリの危機に立たせている千歳川放水路計画につき、その後の経過を報告しよう。

カナダから北海道知事に届いた138通の保護アピールはがきなどを含めて、1万通を超えるはがき作戦や、地元の自然保護団体の活発な運動などが大きな成果を上げ、とにかく年内にルート決定をすと強気の姿勢を打ち出していた北海道開発庁は、中ルート案と西ルート案については、放水路を作る計画はない事を明らかにし、12月20日の河本長官の記者会見では「東ルートを中心に詳細な調査を進める。その結果60年度末にルートを決定し、61年度に着工したい」と発言。それに対して石本環境庁長官は「西ルートが事実上遠のいたのは結構な事。源流部はできるだけ避けてほしい」とコメントした。

長官発言に対しては、事実上のルート決定

であり、見切り発車であると、北海道自然保護協会や地元の農協、漁協、酪農組合などからも批判が続出している。

日本野鳥の会としては、放水路計画への根本論議を深める中で「美々川源流部のう回、水位低下への対応」などをめざし、物言わぬ野鳥や自然の代弁者として、地元の方々とも共同歩調をとって行きたいと考えています。今後とも皆様のお力添えを継続して下さるよう心からお願いします。



今月号のカットは中村雅和さん。
イラスト入りタイトルは鷹尾正済さん。

ガン・カモ類全国一斉調査

県内の報告

1月15日全国で一斉にガン・カモ類調査が実施された。県内における結果は次の通り。
参加者・延べ69人 調査地点・15か所
鳥種別集計・1万羽以上＝カルガモ／1万羽～5千羽＝コガモ、マガモ／5千羽～1千羽＝オナガガモ、ヒドリガモ／1千羽以下＝ハンビロガモ、キンクロハジロ、トモエガモ、ホシハジロ、オシドリ、コハクチョウ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ホオジロガモ、アメリカヒドリ、ミコアイサ

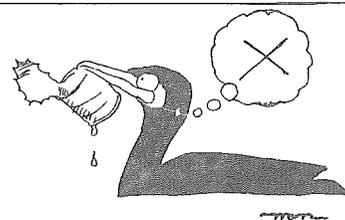
以上16種 約3万羽
地点別集計・5千羽以上＝久喜菖蒲公園、利根川阪東大橋下流／5千羽～1千羽＝森林公園山田大沼、狭山湖、神流湖、森林公園西田沼／1千羽以下＝ほか9か所
調査員の皆様、ごころうさまでした。

トラフズク（フクロウ科）

この写真を見たある女性は「隣の家の猫そっくり」とさげんだ。耳羽の長いフクロウの仲間。昨年12月30日、浦和市内見沼田圃近くの林中で出会った2羽の内の1羽である。昼間は人があまり近づかない、よく繁った屋敷林や古い神社の木の枝に、ときに数羽でひそんでいる。その環境と十分な餌とがそろっているという条件を満たす場所は、県内では急速に減少している。

夜間は盛んに活動し、羽音を立てずに突然おそいかかってネズミ類をよくとらえ、毛や骨などの不消化物を、ペリットとして吐き出す。

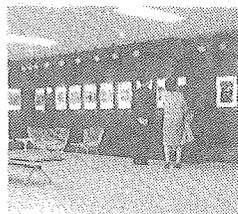
（表紙の写真と文・海老原美夫）



鳥仲間・グループ紹介

武蔵野野鳥生態写真研究会

事務所・上尾市上尾村792-104 松田喬方
会長・松田喬 現会員・10名



今からちょうど10年前、写真好きの鳥キチが10人ほど集ってこの会が生まれました。その中心になったのは、今は北海道に移住して活躍されている野鳥生態写真家の嶋田忠氏です。現在も顧問として嶋田氏にご指導をいただいております。

それまでの、横向きお目めパッチリの凶鑑の写真に満足できず、自然の中で伸び伸びと生活している野鳥たちの姿を撮影し、野生のすばらしさを多くの人に知らせようという目的で始めました。

会則は特にありません（一度作ったのですが皆んな忘れてしまいました）が、入会の資格は、自分のフィールドなりテーマを持って、身近な野鳥の生態や自然の姿を、じっくりと記録して行こうという考え方の持ち主であれば充分で、年齢や鳥歴、写真の上手下手は全く関係がありません。ただ、珍鳥を追いかけたり、撮影した種類数を誇ったりする方には、ご遠慮いただくことしております。身近な自然を愛するやさしさが、最も大切だと考えているからです。

これまでに、日頃の成果を写真展として発表し、この10年間に6回行っております。幸い好評を博し、毎回多くの方々にご来場いただき、多くの声援とご指導を受けることができました。今後も一層充実したものを発表してゆきたいと考えております。（松田喬）



モズ と か す み 網

為 貞 貞 人 (浦和市)

私のフィールドは見沼通船堀から武蔵野線にかけての見沼田圃のごく一部。年の瀬の12月28日、正月休みの散策が楽しめる、いつもの冬野に足を向けた。通船堀西縁を芝川に出て左折したところに花畑がありネコヤナギがまだ固く芽を閉じていた。そこはいつもカワラヒワ、ホオジロ、カンラダカの格好の隠れ家になっているのだが、その朝はちょっと異様。なんとカスミ網にモズがかかってもがいているのではないか。

近くに新築中の家があり、若い夫人に畑の持ち主を聞いたが、知らないとのこと。「カスミ網の使用は法律で禁じられていますから」と告げ、畑に入りモズに手を伸ばす。首をもたげ鋭いかぎばしを一杯にあけてかみつこうとする。背をつかもうとしたとき親指を軍手の上からカッとかみつかれた。その痛さに悲鳴をあげたがなかなか放さない。足や羽が網

にからまる。仕方なく網を切りやっと開放すると、かろうじて近くの枯草の中に飛び込んだ。

「うまく飛べるだろうか」「保護すべきではなかったか」との戸惑いがあったが、いまはカスミ網の処分が先決だ。強く打ち込まれた竿を引き抜き、網を巻いて畦に倒してその場を離れたが、モズの安否が気がかりで心が晴れない。手袋を脱ぐとモズのかみ跡に血がにじんでいた。それにしてもくちばしの強さには驚いた。さすが「猛禽」。

“あなたがかんだ小指が痛い”という歌の文句ではないが、あの痛みを思い出して、モズへの思慕をつのらせている。あのモズはいま春を待ちつつ見沼田圃の上を滑空しているだろうか。その後、かの畑にはカスミ網は立てられていない。

失われた群一リョコウバト

今 井 明 巨 (熊谷市)

リョコウバトは絶滅した鳥として有名である。

1914年9月1日に最後の1羽が消えるまで、この鳥が絶滅すると、だれが考えたであろうか。それほどまでにこの鳥の個体数は多く、その数2億5千万羽と言われていた。おそらく、世界一の個体数であったろう。

北アメリカ大陸北東部地方に生息し、秋の渡りの季節には大群で南部地方へ移動した。この移動のルートにあたる地方では、昼でも薄暗くなるほどであったといわれ、農家では毎日、ハト肉料理が食卓を飾り、庭にブタを放して、ショットガンを狙いを定めずに空に向けて撃ち、バラ、バラと落ちてくるハトをブタが食べるというぐあいで、消費しきれぬ肉は塩漬にして大量に出荷された。

リョコウバトは環境汚染や森林の減少が絶滅の原因ではなく、銃と網によって最後の1羽まで狩り尽くされたという点が注目されるべきであろう。

一方現在の日本においてハンターたちから、ヤマドリ狩は難しいが、ダイナミックで楽しいとの声を聞く。我が国の特産種であるヤマドリが銃と網によって絶滅することはないであろうが、5つの地方亜種のいずれかが絶滅する危険は存在する。もう、このへんでヤマドリを狩猟鳥からはずすべきではないだろうか。ヤマドリが日本のリョコウバトにならないためにも……

(なお、リョコウバトについては、小学館刊「滅びゆく動物」にイタリア人画家による、美しいイラストが描かれている)

野鳥情報

- オオジュリン ◇12月26日、蓮田市黒浜沼で10羽。(中島郁夫)
- タマシギ ◇12月31日、桶川市江川中流域で4羽。(長野博行)
- アトリ ◇12月31日午後零時半、熊谷市大麻生の森の中で♀2羽。(今井明巨) ◇1月19日、蓮田市黒浜で1羽。(中島郁夫) ◇2月8日午前11時、寄居町荒川正喜橋付近で35羽。(石井生高)
- ユリカモメ ◇1月13日午前10時、寄居町男衾地区の荒川で約15羽。(石井生高)
- シロハラ ◇1月16日、浦和市中尾で2羽。(草間和子) ◇1月19日、蓮田市黒浜で1羽。(中島郁夫)
- クイナ ◇1月19日、蓮田市黒浜で1羽。(中島郁夫)
- コガラ ◇1月19日午後2時半、秩父郡横瀬村で1羽。(今井明巨) ◇2月5日午前10時、大宮市日進町1丁目目で2羽。(森本国夫)

- ウソ ◇1月19日午後3時、秩父郡横瀬村で♂7羽♀6羽。(今井明巨)
- ミコアイサ ◇1月20日午後3時、久喜市久喜菖蒲公園で♂1羽♀2羽。(松井昭吾ほか4名) ◇2月4日正午、吉見町の和名沼で♀1羽。(田中智恵子)

—野鳥情報—

ハヤブサ 一羽
8時 1月19日 午前11時頃
場所 秩父町大戸耕地

ノスリ 二羽
8時 1月19日 午前9時頃
場所 庄和町金野井の江戸川付近で河原に急降して野不三を捕食。
埼玉県 越谷市
関根和行 PS 朝葉 金野井の

- ゴジュウカラ ◇1月24日、寄居町金勝山で1羽。(石井生高)
- オオハクチョウ ◇1月26日午前11時、川本町植松橋下流の荒川で成鳥3羽、幼鳥2羽。(村上トシ江、田村照治、石井生高)
- ウグイス ◇2月1日、鶴ヶ島町の自宅の庭で1羽。(鈴木暁子)

会員の声

鴨千羽たせし鷹の舞い去れり
諸徳寺四郎(大宮市)

我が高校のマラソン大会が三郷駅付近の江戸川土手から葛飾橋折返しの15Km区間で行われ、走りながらそれとなく川の方を見ると、カモの群れ(10~80羽以上)があちこちに見られました。このあたりにお住まいの会員の方がいらっしゃいましたら、カモの種類をおしえてください。

中村 雅和(八潮市)

元日の早朝、行徳でスズ

ガモの帰還を見る会に参加して来ました。6時すぎ、やっと空に明るみが見えたと思うころ、スズガモの第1陣が上空を通過しはじめ、その後は続々と数百、数千の群れが、首をのばし、必死にはばたき……その姿には全く感動いたしました。

星とたき火とカモの群翔、初日の出、今思うと夢の中のできごとの様です。

田中昭三郎(北本市)



子雀みゆき(川口市)



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円。

3月3日(日) 長瀬町 荒川

午前9時秩父鉄道長瀬駅集合(大宮7:31始発→熊谷8:10着→秩父鉄道乗換8:19発→長瀬9:05着/東武東上線志木7:38発→川越7:50発→森林公園乗換→寄居8:45着→秩父鉄道乗換8:48発)当日宝登山神社の火祭りのため、予定を変更して荒川の岩畳を歩きます。宝登山は3月31日に登りましょう。(担当・田村照治、石井生高)

3月10日(日) 本庄市 阪東大橋(群馬県支部合同)

午前9時30分高崎線本庄駅改札前集合(浦和8:13発→大宮8:19→熊谷9:02→本庄9:27着/寄居8:22発→熊谷8:49着乗換/川越7:40発→大宮8:10着乗換)午後1時頃解散。カモの大群とそれを狙うタカの仲間。(担当・海老原美夫)

3月17日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口集合(熊谷7:19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)または午前9時郷土博物館前集合。午後1時頃解散。ヒバリが舞い上がる春の見沼田圃を歩いてみませんか。(担当・楠見邦博)

3月24日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分秩父鉄道大麻生駅集合(大宮7:25始発→熊谷8:09着→秩父鉄道乗換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩父鉄道寄居8:22発→大麻生8:40着)12時頃解散。ウグイスの初鳴き、ツバメの初認の季節。(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)※国鉄の時刻表が変わりました。

3月31日(日) 長瀬町 宝登山(秩父愛鳥会共催)

午前9時秩父鉄道長瀬駅集合(大宮7:25始発→熊谷8:09着→秩父鉄道

乗換8:19発→他の交通網は3月3日の分と同じ)3月3日の予定を変更、この日、秩父愛鳥会の皆さんと共に、カラ類の混群やコゲラを探しながら登ります。(担当・田村照治、石井生高)

4月7日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

午前9時寄居駅南口集合(大宮7:25始発→熊谷8:09着→秩父鉄道乗換熊谷8:19発→寄居8:48着/東武東上線志木7:38発→川越7:50発→森林公園乗換→寄居8:45着)午後2時頃解散。春の渡り鳥とヤマセミを期待。(担当・田村照治、石井生高)

4月21日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催)参加費無料

午前8時15分北浦和駅東口(熊谷7:19発→大宮8:02→京浜東北線乗換)または午前9時市立郷土博物館前集合。午後1時頃解散。セッカヤコチドリ、もう夏鳥の季節。(担当・楠見邦博)

4月22日(月) 大井野鳥公園平日探鳥会

午前8時赤羽駅京浜東北線ホーム北端(川口寄り)集合。赤羽始発の電車で品川駅まで行き、品川駅東口からバス、午前9時半ごろ大井野鳥公園着。午後1時ごろ現地解散。干潟に遊ぶシギ・チドリの群れ。(担当・佐々木勉)※29日は一斉調査の日なので、第3週にしました。

4月28日(日) 熊谷市 大麻生

午前8時40分秩父鉄道大麻生駅集合(大宮7:25始発→熊谷8:09着→秩父鉄道乗換熊谷8:19発→大麻生8:29着/秩父鉄道寄居8:22発→大麻生8:40着)12時ごろ解散。林の縁にはコムクドリ、川原ではイカルチドリがピッピッピ。(担当・鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)



探鳥会報告

1月20日(日) 浦和市 三室地区

△ 50人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ コガモ オナガガモ コジュケイ イカルチドリ タゲリ タカブシギ イソシギ タシギ キジバト キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボンガラス ハシブトガラス(34種) 水辺の貴公子タゲリが登場。

1月27日(日) 熊谷市 大麻生

△ 20人 天気 晴 鳥 コサギ カルガモ オナガガモ イカルチドリ イソシギ タシギ ユリカモメ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハンボンガラス ハシブトガラス(30種) 森の中ではメジロの群とアカゲラのドラミング、河原ではスーパースターのカワセミが今年もよろしくと御挨拶。

2月3日(日) 本庄市 阪東大橋

△ 29人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシブトガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ イカルチドリ シロチドリ ハマシギ イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボンガラス ハシブトガラス(33種) ヒバリのさえずり、約50羽のハマシギ群など見どころたくさん。

2月10日(日) 茨城県 菅生沼

△ 31人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシブトガモ キンクロハジロ カワアイサ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ タゲリ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメズメ ムクドリ カケス オナガ ハンボンガラス ハシブトガラス(45種) 間近かに舞うオオタカ、カワアイサのペア、トモエガモの模様をじっくり観察。

第5回 洋書フェア (3~4月)

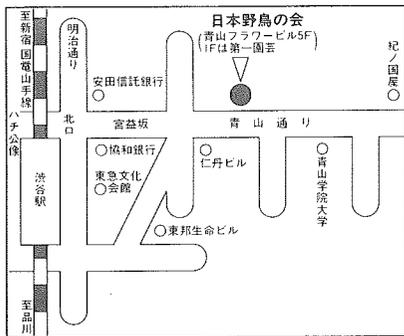
日頃手に入れにくい野鳥中心の洋書を特別に取揃えました。同時になんと30~70%値引の洋書大バーゲンを開催!

例: Collins Bird Guide 2,610円 → 1,300円
 Audubon Magazine 1,000円 → 300円 他多数
 数に限りがございます。お早めにどうぞ!

BIRD SHOP GUIDE

本、インテリア、バードウォッチング用品など鳥にちなんだ商品を豊富にそろえた、会員のためのお店です。お気軽においで下さい。

営業時間: 月~土曜 10~17時 (祝日は休み)
 財団法人 日本野鳥の会 BIRD SHOP (担当・広瀬)
 〒150 東京都渋谷区渋谷1-1-4 ☎03(406)7141





県内野鳥分布調査を予定しています

昨年12月から本年1月にかけて行なわれた冬鳥分布調査と同じ要領で、繁殖期である5月から6月にかけて夏鳥の分布調査を、県支部独自の調査として計画しています。しかも12~1月の冬鳥と5~6月の夏鳥の分布調査を今後数年にわたって継続して、データを蓄積して行こうというものです。

今まで県などからの委託調査という事で実施した支部はいくつかありますが、支部独自で実施した例はありません。全国で初めての試みです。

あなたも気軽に参加できます。調査期間中に県内で見た鳥を、下記の要領ではがきに書き、お知らせください。

- 氏名、住所、電話番号
- 観察地(地図上でどこかわかる様に。例えば伊佐沼とか、〇〇の南5kmくらいとか)
- 鳥の名とおおよその数
- あて先 県支部事務局
- 調査期間は、夏鳥の移動がほぼ終る5月10日から始めて7月10日まで。
- その他の詳しい事は、また後でお知らせします。

本部の委員と評議員に就任

本部で新たに専門委員会が発足し、県支部からは、事業委員に今井明巨と松井昭吾、指導委員に西城戸司が就任しました。また本部の評議員会に支部の代表として出席する評議員には海老原美夫が委嘱されました。

題字「しらこばと」：日本野鳥の会会長・山下静一

『しらこばと』	1985年3月号(第10号) 頒価100円(会費に含まれます)
発行人 今井昌彦	発行所 日本野鳥の会埼玉県支部
発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号	
電話0488(32)4062	
郵便振替 東京9-121130	銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990
印刷所 埼新印刷株式会社	

春のシギ・チドリ類全国一斉調査

4月29日(休日)に、春のシギ・チドリ類全国一斉調査が行なわれます。昨年秋の調査を経験した方はもちろん、今年は参加してみようかなと考えている方、御連絡ください。

埼玉新聞の連載完結

会員の皆様の写真と文で構成した「埼玉の鳥・冬」シリーズは、好評のうちに50回で終了しました。御協力ありがとうございました。

ご寄付にお礼

次の方々から御寄付をいただきました。ありがとうございました。(敬称略・50音順)
井口達弥 8,000円、今井明巨 1,200円、最明治弘 1,200円、関口礼子 1,200円、松井昭吾 1,200円

会員数

2月20日現在で474名です。



先日、私の職場で大きな鳥が死んでいるという連絡を受けてかけつくと、コジュケイが3羽も落鳥していました。窓ガラスには3ヶ所に羽毛がこびり付いていて衝突の激しさを物語っています。美しい羽毛を見つめつつなぜこんな場所とであわれでなりませんでした。その夜は自宅に安置して家族に見せ、翌日に3羽一緒に埋葬してやりました。幼いわが子に命の尊さを知って欲しいと願いつつ。(森本国夫)

(無断転載を禁じます)